

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2階)

事業所番号	2790300079		
法人名	株式会社 カームネスライフ		
事業所名	グループホームここから木田元宮		
所在地	大阪府寝屋川市木田元宮2-6-13		
自己評価作成日	平成32年1月20日	評価結果市町村受理日	平成32年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成32年2月14日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ここから木田元宮はグループホームに小規模多機能型居宅介護が併設しています。特に認知症の方への支援に力を入れています。地域密着型サービス事業所としてご自宅での生活から認知症が重度化しても安心してご入居頂ける施設を目指してサービスを利用されていない時から見守り等を行い少しでも沢山の利用者様や家族様の思いがケアに反映できる事を目標にしています。入居者様にとって環境の変化やケアスタッフの変更はご本人の社会性を損なうだけでなく、QOLにも影響を及ぼします。住み慣れた地域でご本人の状態に合わせたサービスの提供を心がけています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の前には、道路を挟んで私鉄電車の車庫があり、広々とした景色が広がっている。事業所の庭の畑には、地域のボランティアの協力で季節の野菜が植えられ、利用者も共に収穫し、秋に掘った芋はすぐにおやつとして提供されている。建物の1階に小規模多機能型施設が併設され、その利用者が、状況の変化によって2階・3階のグループホームに入居するケースが多い。逆に、1階に移動して支援を受ける例もあって、利用者にとって安心である。館長は、人材を育成するために若い職員を管理者に推薦し、現在の体制を取っている。利用者一人ひとりへの対応を重視して、思いに沿えるよう努めたいと、新しい管理者は抱負を語っている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域とのかかわりを持ち行事の参加や事業所として各種相談の声掛けや見守り活動を行っている。	利用者中心に考えた事業所理念は「1.入居者様中心の医療・看護・介護、2.地域社会への貢献、3.研究心と向上心を持つ、4.和を尊ぶ」の4つとしている。職員ミーティング時には皆で確認し合って、介護の目標としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の方からの相談や用事等なくても気軽に立ち寄れるような環境作りを意識している。	自治会に入り、地域のもちつき行事に参加し、事業所の夏祭りには、近隣の人に参加の声掛けをして交流に努めている。また自治会から、事業所の認知症に対する専門知識を活かして、地域で研修会を開いてほしいとの要望があり、これに応える予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの相談や事例の紹介、または鍵預かり事業所の集まりの機会に民生委員の方や関係者に話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間6回運営推進会議を行っており普段から連携が取れている。報告やご意見を頂きサービス見直しに努めている。	2か月に1度会議を開催しており、地域包括支援センター職員、自治会長、家族、管理者及び職員が参加している。会議では、事業所の介護実態、研修、行事の報告などを行い、参加者から意見や助言をもらって、日々の介護に反映させている。	運営推進会議の目的の一つは、家族や地域への情報の公開、発信であり、また外部と情報を共有することで、より良い介護を目指すことにあるので、多様な参加者が望まれる。現在は民生委員の参加を要請中で、実現することを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所としての相談や報告事案は事あるごとに行っている。	市の高齢介護室、指導監査課とは利用者の受け入れ相談や、事業所の状況報告などで関係している。また利用者の医療券などの必要書類の請求などで、窓口を訪れて連絡を取り合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	手引きに従い職員一同身体拘束0を目指している。	身体拘束の内容と弊害については、勉強会を通して皆が理解を深める努力をしている。テーマを決めて実施した勉強会の記録は、全員に回覧し共有している。2・3階の出入口は施錠しているが、1階の併設施設と合同で催しを行うなど、気分転換を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会を行っている。また職員と密にコミュニケーションを図り職員のストレス軽減を行い虐待予防を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援や後見人が就かれています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に時間をかけ説明を行い、普段からコミュニケーションを取り疑問の解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事、面会時、運営推進会議等で意見を頂き職員間で共有を行い事業所運営の改善に努めている。	家族が訪問した時には、管理者ができるだけ対応するようにして話しやすい雰囲気を作り、コミュニケーションを図っている。家族と情報交換を密にし、面会時に出た意見は、改善に結びつける努力をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々のコミュニケーションで対応を行っている。	月に1度、研修も兼ねた職員会議を開いている。リーダーを中心に情報の共有を図り、日々の介護に反映させている。研修は、緊急時対応、認知症、口腔ケア、レクの必要性などのテーマを各職員が決めて、意見発表を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与面では介護保険の動向を見ながら職員の処遇の改善や福利厚生などの見直し反映に努めている。また勉強会を毎月行い各職員が介護についての知識を深める環境作りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に対してはプリセプター制度を導入しどこまで出来ていて何が出来ていないかを中堅職員が把握し新人職員が安心して働ける環境作りを行っている。また施設内、施設外研修に加えて事業所独自の勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や話をする機会がある時に他事業所の方などと情報の交換を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様の意向も大事であるがご本人様の意向を出来るだけ聞き出し可能な限りケアに組み込みご本人様主体のケアを提供出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様のQOLだけでなくその家族様のQOLの向上も目的にサービス導入を行う為可能な限り対応行っている。またその都度相談できる環境作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自施設の利用の有無にかかわらず丁寧に対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で洗濯、掃除等ご本人様の可能な範囲で手伝って頂き施設での生活の中で役割を持ち過ごされている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	その家族様の事情等もあるが出来るだけ面会に来て頂ける様声かけ、環境作りを行いご本人様と接して頂く機会を増やし家族様の支えの元ケアを行えているという事を分かっていただけ様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある方との交流は本人様の確認の元拒むことなく受け入れをさせていただいている。	利用者一人ひとりの思いに沿えるケアを目指している事業所として、日頃の会話から聞き取った話を大切にしている。個別ケアとして、本人が望んでいる所(四国)に同行し、懐かしい親族に会う支援を計画している。行き慣れた銀行に出掛け、利用者自身で金銭管理をする支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の背景や性格に配慮を行い支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	基本的には死亡退去の事例があまりないが日々関係性を大切にしよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限りご本人様、家族様から情報を収集行いケアに活かしている。	日々の生活の中で、利用者の思いや意向を汲み取る努力をしている。家族からの情報や、入浴時、散歩時などの会話の中から聞き取った利用者の思いを皆で共有し、ケアに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限りご本人様、家族様から情報を収集行いケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	可能な限りご本人様、家族様から情報を収集行いケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングと状態の変更に合わせ早急に対応している。	日々の申し送りノートや居室担当職員の報告、また家族の希望も反映させて、介護計画を作成している。モニタリングとアセスメントは月1回行い、利用者の状況の変化に応じて見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に関しては個人差が大きく改善の余地が多くある。職員会議で情報共有は行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズが多岐にわたり苦慮することもあるが出来るだけニーズに応えられるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	連携を密にして支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	意向に従いこちらで受診の付き添いをする事もある。	かかりつけ医は、家族の希望を優先して決定している。契約医療機関による月2回の内科往診、週1回の歯科往診によって、利用者の体調管理を行っている。併設の小規模多機能施設に勤務する看護師に相談できる体制である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診または、自施設の看護職と連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	面会や状態の観察、入院先との連携を心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に話をするとともに、不安の無い様に状況に合わせその都度お話、相談を行っている機会を設けている。	入居の段階で、重度化及び終末期についての事業所の対応を家族に説明し、同時に家族の思いを確認している。利用者が重篤の状態に至った時点で、かかりつけ医から家族に対して説明し、改めて家族の考えを聞き、家族の協力を得て希望に沿った対応を行うようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会等で対応方法について職員間で共有を行っている。また緊急時には速やかに主治医の指示が受けれる様に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力の元年2回の避難訓練のほか不定期であるがミニ訓練を行っている。	火災感知器、通報設備、消火設備が整備され、避難経路も明確になっている。年2回の避難訓練も実施している。近隣の地形上、雨水の排水能力不足で、30センチ程度の床上浸水（一階部分）をした経験がある。行政による排水能力強化も実施されているが、その経験を活かして防災面に反映させている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーと入居者様の権利擁護に努めている。	利用者個々の性格を十分に把握した上で、年長者に対する尊敬の気持ちを職員は忘れないように接することを基本としている。利用者と職員の共同生活の面もあるので、お互いが支え合って信頼関係ができるように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	要望を実現するための努力とご本人様で決定が出来る様に自立支援行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならずご本人様主体でケアを行えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族様の協力の元気を付け支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	施設内で可能な範囲で役割を持ち過ぎて頂いている。	高齢者向食材業者から仕入れた材料を用いて、職員が味を吟味して調理した手作り料理を提供している。職員も利用者と一緒に食事を摂っている。夏季には、事業所の菜園の野菜などが食卓に上る。法人の館長会議でも、食事ケアは重要テーマとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録を通し職員間で一日の食事量、水分量等把握している。また主治医の判断の元嗜好品等持って来て頂きその方の食習慣を大切にしよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きを行い歯科の往診を利用し口腔状態の維持に努めている。また勉強会等で口腔ケアの必要性についても職員間で情報を共有している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様一人一人の状態に合わせて臨機応変な対応と自立支援に努めている。また汚染時は自尊心を傷つけないような声かけ、ケアを心がけている。	可能な限り気分爽快なトイレでの排泄を続けてもらうように、利用者個々の排泄の特徴(リズムや内容)を記録してパターンを職員で共有し、タイミングの良い声掛けと誘導に努めている。水分補給や食事内容と排泄の関係も考慮している。職員シフト交代時に、排便状況を確実に伝達している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	すぐに薬に頼るのではなく日々の生活の中で工夫し、自然排便を行えるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を拒否される方もいらっしゃるため臨機応変に対応している。また季節を感じて頂く為季節風呂を行い普段とは少し違うお風呂を楽しんで頂いている。	週に3回は入浴できるように支援している。ADL状態に応じて、1階の小規模多機能施設に設置されている機械浴の利用も行っている。利用者の入浴拒否や体調不良の場合は、清拭やシャワー浴に切り替えて、清潔保持と体調異変の確認に努めている。入浴を楽しんでもらうために。柚子湯などの季節風呂を工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	臥床時必要に応じてクッション等でポジショニングを行い安楽な体勢で休んで頂ける様努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を正しく理解し出来るだけ服薬しない方法を日々検討している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	可能な限り行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	平均介護度が年々上がっている為難しくなっているが気候などを見ながら外出できるよう努めている。	利用者の体調、気分と天候を考慮して、外出するように努めている。外食や買い物に出掛けることもある。近くにコンビニの出店計画もあるので期待している。事業所の向かい側が私鉄の車庫で、電車が動く音も五感の刺激の一つとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様で管理されている方もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	されている方もおられる。こちらから制限は無い。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレなどは目印を置き混乱が無い様に努めている。また飾り付けなどを行い季節を感じて頂ける様工夫を行っている。	リビング兼食堂には、正月の飾りつけ、節分の飾りつけ、ひな祭りの飾りつけを行い、春を迎える梅や桜の飾りつけが予定されている。利用者の残存能力を活かしてもらうように、ユニット毎に職員が共同作業を促している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室への出入りも自由であり、配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険物の持ち込みは制限する事もあるが特に禁止していない。本人様、家族様には生活の馴染みのある家具等持ち込んで頂ける様声かけを行っている。	できるだけ在宅の時の利用者の部屋の雰囲気に近い設えが落ち着くので、使い慣れた家具や備品、家族の写真などを置いてもらうように、家族にお願いしている。仏壇(神棚)などを持ち込む利用者もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援を心がけてケアに取り組んでいる。		